

# PICC 愛知支部 途上国支援委員会

プノンペンツアー 2017

2017年6月26日



途上国支援委員会並びに参加者有志

奥村	雄介
後藤	裕一
大塚	俊樹
増田	貴哉
細川	雅史
八木	理恵子
渡邊	千晃
角野	大輔
小中	雅之
坂田	祐二
高橋	亜貴人

計 11 名

はじめに

第 1 章	JICA（日本国際機構）訪問	担当：後藤 裕一
第 2 章	CBTC（CIESF Business Training Center）	担当：八木 理恵子
第 3 章	TMI 総合法律事務所	担当：増田 貴哉
第 4 章	METES Global Communications	担当：渡邊 千晃
第 5 章	CBTC 校長 土居様との会食	担当：細川 雅史
番外編	クラペッパー農園訪問	担当：増田 貴哉

## はじめに

昨年、2016年9月28日、カンボジアで開校する初めての日本式教育を取り入れた一貫校「CIESF Leaders Academy (CLA)」の開校式典が執り行われ、PICC愛知支部途上国支援委員会他有志も、同式典に参加いたしました。

そして今年、2017年6月26日、昨年同様、PICC愛知支部途上国支援委員会他有志を集い、『プノンペンツアー2017』を実施しました。PICC途上国支援委員会の活動目的は、途上国支援を通じて、PICCが掲げる「三方よし」「和をもって尊しとなす」「足るを知る」「浮利を追わず」といった日本古来の「在り方」を世界共通の価値観として広めることで、地球益に貢献することを最終到達点としています。さらに、PICC愛知支部途上国支援委員会としてまずは、5年以内に会員全員が途上国に進出することを目的とし、一人でも多くの会員の方に途上国に目を向けてもらえるよう毎年、プノンペンツアーを計画していき、支援して参ります。また、CLAの土居校長と相談しながら、CLAで学ぶ子供たちに日本古来の「在り方」を伝えていくためにPICCの会員が講師となり出前授業の導入、創造力と課題解決力を養う教育としてLEGOエデュケーションというレゴブロックを使用したプログラミング授業の導入などを検討して参ります。

今後、100年の間に人口増加が見込まれるアジア圏の中で、ハード面だけでなく、ソフト面として日本式の「在り方」を伝えていくことによりアジア諸国との価値観の共有を図っていきたいと考えております。

本報告書では、3回目となるカンボジア視察（プノンペンツアー2017）の概要についてご紹介させて頂ければと考えております。

最後に、このプノンペンツアーの企画実施にあたっては、第1回の視察に引き続き、改めて奥村雄介ブロック長のお力添えをいただきました。ここに改めて奥村雄介ブロック長に深く感謝の意を表したいと存じます。

2017年8月24日

## 第1章 JICA（日本国際機構）訪問

株式会社大翻 代表取締役 後藤裕一

### 〈 カンボジアの生活環境について 〉

- ・ 日本食レストラン 150 軒以上で親日
- ・ カンボジア料理も日本に合う
- ・ 外資カフェ、ファストフードの進出ラッシュ
- ・ アパート建設ラッシュ
- ・ 2014 年オープンのイオンで消費分化が激変した。
- ・ 日系病院も開業
- ・ 増えるバス、タクシー
- ・ モバイルサービスも 2014 年～開始

カンボジアは人口約 1,500 万人のうち 10%170 万人がプノンペンに集中しているが、東南アジアの中でも小さな国。一人当たりの GDP も増加していて成長率は 6.9% と高い。教育のレベルは中学校卒業で約 50%にとどまっている。また人口構成極端に若く、25 歳以下の人口が 50%を占めることから、今後も就業人口、結婚人口が増加にともない経済は上昇していくことが容易に推測される。ただ、人口の 3分の2（約 65%）が農業に従事している農業主体の労働人口分布であるが、稼ぎ出す GDP は農業の生産性が低いことが課題である。サービス業の生産性が高いのも特徴。東南アジア諸国の中でカンボジアの優位性を考えるとまず挙げられるのが、安い賃金、労働人口。（近隣諸国の賃金の上昇、就職者が少ない）そして、タイ、ベトナムと陸路で隣接している地政学的な優位性。（JICA もこの 2 国を結ぶ道路員プラに力をいれている）



## 第2章 CBTC（シーセフビジネストレーニングセンター）の現状

オフィス金城 代表 八木理恵子

④校舎の入り口付近。日本語に触れる機会を増やすため、随所に日本語が

⑤昼間の授業にお邪魔して、生徒たちに自己紹介



日本語と日本文化、ビジネスマナー等を教える CIESF Business Training Center (CBTC) として 2011 年に創立。「就業しながら、大学に通いながら日本語、日本文化を学びたい」という 20 歳前後の学生が現在約 180 名在籍。学費はすべて無償、寄付で運営されている。授業の見学に際し、土居校長に話を伺った。以下、土居校長の話の要旨である。

シーセフリーダーズアカデミー（幼稚園）ができてからは午前中のクラスが無くなり、以前は 250 名ほど在籍していた学生が、現在は 180 名ほどに減少している。また、2017 年 8 月からは、幼稚園のクラスの拡大により、午後の日本語クラスも無くなり、夜間だけとなる。現在も夜間のクラスの数が多く、昼は 3 クラス、夜は 5 クラスとなっている。ほとんどの学生は働いており、日本語能力をもっとブラッシュアップしたいというのが目的。昼間は働き、夕方から勉強しに来るケースが多い。学生時代に日本語を学んでいて

も、仕事などでの会話レベルは使用できない。個人差はあるが大半は10年以上の学習が必要。

見学をさせてもらったのは昼間のクラス。主に他の大学で学んでいる学生が授業を受けている。カンボジアでは小、中、高、大学と終日授業を行っている学校は無く、午前中で終わり、若しくは午後からという課程になっている。他の大学で日本語以外の言語やPCの勉強をしているという学生も通ってきている。

国に正式に認められた日本語学科があるのはプノンペン大学とメコン大学の2校のみ。この2校に通う大学生もCBTCに通っており、日本語教育の入り口の部分で協力している。日本語のより専門的な勉強はプノンペン大学やメコン大学でといったスタンス。互いの学校の協力関係も強く、双方向の情報交換をし、同じ目標を目指している。

7/2に卒業試験前の大事なイベントである「日本語検定能力試験」がある。N1～N5の級があり、インドネシアやベトナムなどでは、これによって賃金が変わるところもある。カンボジアでも企業数の増加に伴い、そういった傾向が見られるようになった。これに伴い夜間の授業を希望する学生が急増。授業が受けられないほど盛況である。今日も昨日も、急遽授業を行ったところだ。

現在はN3の級を持っていれば、日本で働くことができる。以前はN2が基準。N2は非常に厳しい基準であり、カンボジア全土で何十年も検定をやってきて、合計1000人にも満たない。N1になると100人。

正確な統計はないが、中国ではN1は約50万人いると言われている。それがカンボジアでは100人・・・つまり、学校がない、教育がないということでもある。ポルポト政権の影響で教育制度が崩れてしまい、未だにきちんとした教育が受けられていないのが現状。語学偏重の要因になっている。

今、カンボジア全土で日本語を学んでいるのは約5,000人、韓国語は50,000人、中国語は100,000人と言われている。日本語は難しいため、やめていく人も多い。ひらがなの全文字(50音)が理解できずやめてしまうのが1割、カタカナの全文字で残り9割のうち1割が同様にやめていく。さらに、初級漢字でまたやめる、ちょっとした文法が入ってまたわからない、敬語などが入ると「もう無理…」となる。

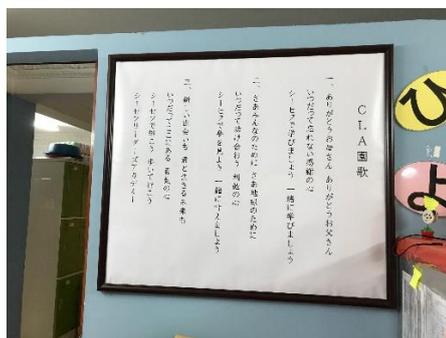
半年ごとに壁がきて、3年、5年を超えて初めてコツコツ勉強するようになる。CBTCにいる先生たちは同じ過程を経験してきている。

現在、日本政府によるカンボジアへの支援はほとんどなくなってきた。ミャンマーやアフリカへの支援に代わってきたが、カンボジアにも日系企業が増加してきたので日本語のクラスの必要性も高まるだろう。

7/30が卒業式。卒業までの1か月は仕上げの期間に入る。会社に入ったときはどんなことが大事か、椅子の座り方、面接での答え方、名刺の受け渡しなどを学んで卒業する。シーセフでは幼稚園の教育にシフトしつつあるが、現在いる学生たちはどうなるのだろうか。再来年、小学校開設で現在の場所から引っ越しをする予定。子供のクラスが優先となるためCBTC自体の存続も危ぶまれる状況か。



CBTCとリーダーズアカデミーの外観



シーセフリーダーズアカデミーの園歌



視察を終え生徒と記念撮影

### 第3章 TMI 総合法律事務所 永田弁護士訪問について

FLSjapan 合同会社 代表 増田貴哉

日時：2017年6月26日 15時半～17時

訪問メンバー：奥村氏・細川氏・角野氏・小中氏・坂田氏・増田

訪問目的：カンボジアへ進出する際の法的な要件を確認するために訪問する

#### ☆TMI の業務内容

##### TMI のカンボジアでの業務

- ・会社設立
- ・ライセンス取得
- ・労務
- ・ストライキ対応
- ・工場内での事故対応
- ・社内規則作成
- ・不動産取得（外国人は購入できないので実質的な手続きなど行っているとのこと）
- ・M&A

- ・基本的に日本人が関わることを行っている
- ・日本の弁護士の資格は使えないけれどもカンボジアの弁護士資格者にアドバイスをする形で業務を行っている。（カンボジアの弁護士資格はお金で買えるようです。3万ドルくらい？）
- ・会社の定款作成もしている
- ・顧問先は20社程度ですが、ほとんどが中小企業で大企業は1割とのこと
- ・顧問料は月2,500～3,000ドル
- ・月200ドルで何でも相談できる契約もあるそうです（奥村さんの会社の家賃が190ドルなので高いか安いかわかりません？微妙です）

#### ☆カンボジアに進出する際の確認事項

- ・会社法は日本の法律を導入しているので、ほぼ日本で行っていることはできるが、設立は株式会社のみで合同会社や合資会社などは設立できない
- ・100%外国資本の設立も可能
- ・日本における優先株や配当制限株、議決権がない株などの発行も可能。日本の法律をもっと良くしたような内容になっているとの指摘がありました。
- ・日本よりはかなり自由にできるようです。ただし、外国人は土地を所有することはできません。（実質的に所有しているような形にはしているようです）

#### ☆カンボジアの状況のヒアリング

- ・カンボジアの警察は、日本の警察とやぐざを足して2で割ったイメージだそうです。  
(その場でお金で解決することが多いそうです)
- ・カンボジアでの借入れはほとんどマイクロファイナンス(日本の消費者金融のようなもの)だそうです。金利も相当高いようです。
- ・カンボジア人は区分所有権(マンションなど)は好まず、また、土地と建物は一体として考えるようです。

☆永田弁護士について

- ・非常に温和な方です。趣味で飲食店のプロデュースもしており、日本人好みのお店を作り通っています。
- ・今年でカンボジア4年目。現在はバンコクと半々の生活とのこと



以上

## 第4章 METES Global Communications

有限会社シーズプランニング 代表取締役 渡邊千晃

日時：2017年6月26日 17時半～18時15分 草間さんの紹介で訪問

訪問メンバー：高橋氏、大塚氏、増田氏、後藤氏、八木氏、渡邊

対応者：METES 代表取締役 柳内学氏、METES (PIF スタッフ) リッダさん、  
株式会社アウトソーシングカンボジア相澤さん 3名

METS Global Communications 2009年設立

### ＜ 事業内容 ＞

- ・カンボジア人向けフリーペーパー「CHUGA-PON」発行（隔月）
- ・TukTuk 看板広告管理
- ・各種紙媒体デザイン
- ・セールスプロモーション
- ・各種イベント企画
- ・カンボジア進出支援（レンタルオフィス事業） 他

### ＜ 従業員数 ＞

日本人：4名 カンボジア人：15名



NGO 「Pay It Forward (PIF)」 2011年設立 柳内さんとリッダさんに2名で運営

### ＜ 設立の背景 ＞

柳内さんがカンボジアのチルドレンホーム（孤児院）を視察した際、劣悪な環境に衝撃を受け、何か自分にもできることはないかと考え、設立当初は自社の売上の10%を支援に充てる活動を開始。その後、その活動が日本人支援者の目に留まり、様々な支援のもと NGO 「Pay It Forward (PIF)」 を設立し現在に至る。

### ＜ 事業内容 ＞

- ・カンボジア国内のチルドレンホーム（孤児院）の各種支援
- ・有料／無料 日本語学校の設立と運営

### ＜ 活動・運営資金について ＞

現在は主に NGO の日本人理事（現在10名）の寄付と株式会社アウトソーシングからの支援が中心。

＜ 現状と今後のストーリー ＞

- ① カンボジア教育省と連携し、使用していない公立学校の校舎等が無償で提供してもらい日本語学校として活用する。
- ② 有料の日本語学校（日本語検定試験でN1/N2が取得できるレベル）を運営し、収益構造を確立する。
- ③ 同時に無償の日本語学校の整備を進め、孤児院の子供たちが無償で日本語を学べる環境を整える。
- ④ 日本語を学んだ生徒たちへの「出口」として、日系企業へ就職や日本への実習生としての道を開いていく。



写真中央：柳内さん 中央向かって右：リッダさん 中央向かって左：相澤さん

## 第5章 CBTC（シーセフビジネストレーニングセンター）CLA 懇親会

有限会社 News Agent Hosokawa 代表取締役 細川雅史

- ・開催目的：CBTC 土居校長、増子さん、CBTC で働く保育士さん3名との懇親会

④日本人の方が経営する、焼肉店にて懇親会を開催いたしました。

土居校長、CIESF 増子さん、CLA の先生3名の方々と CLA での現状をお聞きし、途上国委員会として支援できることはないか等ご提案をさせていただきました。



お昼の訪問を終えて、さらに詳しく CLA, CBTC の現状を土居校長、カンボジア人の先生方にお話をお伺いする機会となった。CLA の先生方も勉強期間に差はあるものの、おおよそ3年程度、日本語の勉強をして CLA の教師になられたとのことでした。カワチ式、ヨコミネ式を取り入れられ現在は幼稚園の生徒の教育に尽力されていました。その中で、途上国委員会として、なにか行動としてご支援できないかと、様々な提案をさせていただきました。当初委員会メンバーで出前授業をさせていただきたいと思っておりましたが、生徒がまだ幼稚園児ということもあり、出前授業の実施は数年後が適していると感じました。代案として、日本の教育現場でも実施され始めた LEGO 教室をご提案させていただきました。LEGO エデュケーション（LEGO マインドストーム EV3）のプログラムで LEGO を使用したプログラミング教室です。この教材は、幼稚園から小学校、中学校、高校、大学まで、多岐にわたり、楽しみながら学び、そしてその学びをより効果的に発展させることを目的に開発されています。ハンズオンの手を使ったブロック教材と、デジタルの融合で、子どもたちが創造力や論理的思考力、問題解決力を伸ばしていけるように工夫しています。

土居校長や先生方にも非常に興味を持っていただき、8月に実施して欲しいと依頼されましたが、日程の調整がつかず9月以降で CLA, CBTC で教室を開催させていただく予定です。

懇親会途中には、カラオケ大会となり先生方にも歌っていただきました。日本語の歌がとても上手で驚いたのと海外の方が日本の歌を歌うことに感動をしました。

ある先生は日本語習得のために歌で勉強したので上手になったとおっしゃっていました。最後は、前日のプノンペンカラオケ大会で優勝された土居校長の「I LOVE YOU」で楽しい時間も終了し散会となりました。

## 番外編 クラタペッパー農園訪問

FLSjapan 合同会社 代表 増田貴哉

日時：2017年6月25日 6時～17時

訪問メンバー：渡辺氏・大塚氏・後藤氏・増田

訪問目的：カンボジアで活躍している日本人の代表である倉田氏の農園がどのように運営されているか現地を視察することで理解を深めるために訪問

### ☆クラタペッパーの概要

カンボジアで胡椒農園を経営し、オーガニックで品質の高い純粋な胡椒を世の中に広めるため、また、カンボジア人の労働環境の改善の為に単身カンボジアに乗り込み事業を行っている。

住所：#5 Street 222, Boeng Raing, Daun Penh, Phnom Penh CAMBODIA 12211

農園住所：Sre Ambel, Koh Kong 年平均収穫 4 t

理念（HPより）

私がカンボジアに興味をもったきっかけは、1985年に映画『キリング・フィールド』（1984 Warner Bros.英）を観たことでした。その後1991年の湾岸戦争を機に、人的貢献を望みNGOに参加し、翌年に念願のカンボジアへ派遣されました。まさに「ここから国づくりが始まる」というタイミングでこの国と関わりをもてた事が、今日まで私をここに留まらせているのだと思います。

1970年代の内戦のため、インフラも産業も人材も何もかもを失ってしまったカンボジアの再建には、いろいろな分野からの支援が必要でした。一人の日本人として出来ることをいろいろ模索し悩みながら、1994年に農業の立て直しをしたいという想いから、起業を決意しました。またちょうどその頃、内戦前にカンボジアを訪れていた祖父から、60年代の貿易資料を日本で譲り受けました。そこには当時のカンボジアの主力農産品の記載があり、その中のひとつに「胡椒」がありました。

カンボジアの胡椒は、60年代にはフランスをはじめとするヨーロッパで最高品質として有名でした。歴史も古く、13世紀の後半には、すでに中国にも紹介されています。しかし、70年代からの内戦により農園は壊滅され、人々の記憶から消されていきました。その「世界一美味しい胡椒」をもう一度復活させようと、以前の産地の農家を周り、調査を開始、そして「コクコン州スラエアンバル」で地元の人々と共に、胡椒農園を広げることになりました。私が最もこだわったのは、安全で高品質な胡椒を生産すること。カンボジアに古くから伝わる伝統的な農法で栽培を続けてきたことによって、2011年1月にはカンボジアオーガニック農業協会より、カンボジアの産物の中では初めて「国内オーガニック認定」を取得しました。

世界一と誇れる胡椒を通じて、カンボジアの産業をこれからも育成し続けたい、そして世界中にカンボジアの良さをこれからももっと広めて行きたいと思っています。

☆胡椒について

胡椒はブドウの実のように木に生ります。

倉田さんのところは三種類の胡椒があります。

① 普通の胡椒



② 完熟胡椒（赤い実を使います）



③ 白胡椒 白胡椒は水につけて発酵させています。（揉んで皮を剥ぐと白胡椒になる）



この池は水源になっていてきれいな水がわいてきています。

そこに漬けています。

- ・ 3月が収穫期になります。成熟の実（赤い実）は収穫時に別しているようです。
- ・ 赤い胡椒（完熟胡椒）は甘い。積んだ後で赤くなるのは不味い。
- ・ 胡椒の木は枯れると黒くなる。（死ぬと黒くなる性質があるので胡椒は黒い）
- ・ 虫に食われるのはある程度はOK。その方が間引きになり良い胡椒作れる。
- ・ 農薬を使っている胡椒は粒がそろっているのですぐわかるとのこと。



### ☆カンボジアの胡椒の復活の歴史

終戦後、ある胡椒農家が畑に帰ってきたら奇跡的に3本だけ生き残っていたそうです。

(熱に弱いため全滅しやすいそうです) その方と倉田さんは仕事することになり、今カンボジア中に広がっている胡椒の木はこの3本の胡椒の木の子供、孫になる。

胡椒農家の方は3年前に73歳で亡くなり、現在はその息子さんとパートナーとして経営しているそうです。



倉田さんの手持ちの胡椒！

### ☆その他

日本の農業技術より現地の過去から伝承されている技術を守り、引き継いできたとのこと。

### 農園に行く途中で寄ったカフェ



プノンペンへの帰り道での事故

速い乗用車もトレーラーも牛車も一車線の中を一緒に走っているため。無謀な追い越しで正面衝突したり、急ブレーキで追突事故が起きたり、事故が頻繁に起こっています。

以上